

## 日本語学習におけるノートテイキングの実態 —中上級学習者を中心に—

許 夏玲

東京学芸大学留学生センター

hlhui@u-gakugei.ac.jp

### 1. 研究動機と目的

これまで日本語による学部講義の談話の表現や理解に関する研究が多くなされてきた(佐久間・石黒2010, 岩下2012 等)。また、石田 (2010) で述べられている文系の講義と理系の講義の違いによると、文系講義には「発話が長い」「補足・説明のための挿入句が多いため、複雑になる」等の特徴があるため、理系講義の「発話が短く、強調・言い換え等の確認表現が多い」「視覚を助けるための板書を多用する」等の特徴と比べ、文系の講義のほうが、比較的に聴解が困難であるということがわかる。

以上、述べてきたように、上級レベルまでの段階をたどっている途中の中上級学習者の日本語授業のノートテイキングに関する研究は管見の限りあまりない。本研究では、中上級学習者の日本語授業でのノートテイキングを中心に考察し、ノートテイキングに見られる中上級学習者の特徴、問題点及び教師側の授業への示唆を探ることを目的とする。

### 2. 研究対象と方法

2012 年度の日本語作文科目(受講者9名)及び、日本語文法科目(受講者15名)の中上級(中級後半～上級前半程度)の日本語学習者を研究対象として、パワーポイントを用いて授業を行った。研究方法として、学期開始後、学期終了前に日本語学習者の授業ノートを考察し、またアンケート調査を行い、学習者のノートテイキングに関する困難点やノートテイキングに対する意識、ノートテイキングの変化等を調査・分析する。

まず、学期開始後の調査アンケートの回答(20名)によると、自分の日本語能力において「書く」に自信を持っている学習者は、5名しかいなかったことがわかった。他の学習者は、自分の日本語能力の「読む」(6名)、「聞く」(5名)、「話す・聞く」(3名)に自信を持っていると回答した。

また、学習者の母国大学の授業形式に関しては、プリント配布(16名)、板書(12名)のほうが多く、パワーポイントによる授業はその半分(7名)となり、パワーポイント資料は、授業ではそれほど用いられていないことがわかった。そのほか、授業内容のノートテイクに関しては、時々(4名)、あまり(4名)、なし(1名)という回答が得られ、約半分の回答者はノートテイクに慣れていないということが言えよう。

ノートテイキングは、読み、書き、聞きの3技能を同時に行うものと考えられる。また、書くという行為

には、「授業の内容を理解し記録する」「得られた知識を体系的に整理する」「何が大切なのかを的確に判断し、情報を伝達する」という3つの言語の処理が含まれているという。言い換えれば、ノートテイキングは、学習者の授業内容に対する一種のアウトプットであると言える。

### 3. 研究結果

#### 3.1 学習者のノートタイプ

学習者の授業ノートを考察した結果、次のようなことが明らかになった。

まず、ノートテイキングと学習成績が直接関連しているとは言えないが、ノートテイキングが上手な学習者は授業内容への理解もよく、成績も良いことがわかった。しかし、中期テストと期末テストの範囲は、宿題から出題したため、ノートテイキングと学習成績との関連性を十分に実証できたわけではない。これに関しては今後の課題とする。また、学習成績との関連性が実証できていないため、ここで言う「ノートテイキングの上手な学習者」とは、あくまでも授業内容をしっかりと書きとめ、かつ注釈や教師の豆知識を書きとめられた学習者の範囲に留めたい。

日本語で書き遅れているところや言葉の意味、注釈のところは、国籍に関わらず母語で書くことが多く見られた。この点に関しては、非漢字圏の学習者ノートのみならず、漢字圏の学習者のノートにも日本語の漢字ではなく、中国語の漢字で意味解釈を書かれている傾向がある。

ノートテイキングに見られる学習者の日本語力は、大きく次の4通りに分けられる。

##### 【ノート内容】

1. 聞き取り型
2. 書き写し型
3. 母語注釈型
4. 日本語注釈型

学習者の授業ノートを観察すると、見出しを付けたり、色違いで(答え、重点、訂正、注釈など)分別してあるノートは、学習者が授業内容を理解して重点を整理できたと見られる。学習者のノートテイキングは、授業内容を再現化するため、色分けに意味があるとすれば、授業内容を消化した印の一つであると考えられる。これは、記憶に残しておく、先の学習へとつなげるのに大切なプロセスでもある。

#### 3.2 学習者のノートテイキングの変化

今回の収集データに基づいて考察すると、学期始めの授業ノートには、学習者が母語でわからない表現の意味や補足説明、例えば「コンテキスト」(脉络)、「周知のように」(well-known)のように注釈をつけることが多く見られた。しかし、学期終了前の授業ノートでは、母語による注釈の量が減少したことがわかる。これに関しては、学習者の日本語力が上達してきたため、日本語の表現に対する認識がよくなった、または日本語で注釈をつけられるようにな

った(例えば、「平素」(日々の)、「取り組んでいること」(今していること)、「賜る」(いただく)など)といった理由が考えられる。

学期始めにノートテイキングにまだ慣れていない学習者では、書くスピードを上げるため、画数の多い漢字語彙(初級・中級程度の既習漢字)、例えば「難しい」「了解」「窓」「桜」をひらがなで「むずかしい」「りょうかい」「まど」「さくら」と表記する方法が選択される傾向が見られた。一方、学期末になると、書き遅れているところや同じ表現を繰り返すところではひらがなで表記される傾向があるが、学習者が積極的に漢字語彙で表記する努力が観察された。

ノートテイキングには、書くスピードが大きく左右する。日本語の文字は、ひらがな、漢字、カタカナによって構成されているため、文字への認識の違いと書き方の変化がノートテイキングのスピードにも関与していると考えられる。学期始めには、書くスピードを上げるため、動詞の縮約形(例えば、「文が長く、重文や複文を使」、「仲間に向かって話すように書」(原文のまま)が多く見られたが、学期末になると、学習者がノートテイキングに慣れてきたのか、名詞の縮約形(例えば「敬語」→**敬**)が多く用いられた。

学期始めに鉛筆で授業ノートを取っていた学習者が各項目の見出しをつけることで内容を分類していたが、学期終了前のノートでは、鉛筆で授業内容を書きとめられたほか、見出し番号、箇条書きの・、また色分けで重点、解答、解答の説明などを分別してあることから授業内容への理解と整理ができるようになったと見られる。また、分けて授業内容を書きとめられるようになったことは、書くスピードが速くなり、時間的な余裕ができたとも考えられる。

#### 4. 教師側への示唆・改善策

学期末に行われた調査アンケートの結果では、パワーポイントの資料を見ながらノートを取ることに對して良い評価が多く得られた。学習者の回答を以下のようにまとめられる。(原文のまま)

- ・「速度はちょうどよくて、ノートを取りやすかったです。」
- ・「見やすいし、れんしゅうもんだいをするため すごくべんりし わるくはない。」
- ・「いいと思います。始めの時にとれなくても、だんだんなれてきました。今、パワーポイントを見ながら、ノートをとることができます。」
- ・「この方法はいいと思います。なぜなら、注目しなければならないからです。それだけでなく、わかりやすいです。」

そのほか、ノートテイキングに対する感想や自分の工夫を調査したところ、次のような回答が得られた。(原文のまま)

- ・「自分のノートは読みやすいから大丈夫です。」
- ・「いつも知らないことをノートにメモしているから、わすれた時にいつでもふくしゅうすることができます。」
- ・「ぜんぜんおぼえられないと思うことだけを書く。」
- ・「テーマによってノートテイキングがちがいます。もう勉強したことがあるテーマなら、大事な点だけ

書きますが、あまり知らないテーマなら、パワーポイントに書いてあるのも、先生の説明も書きます。」

・「知らない言葉や漢字を多く覚えるようになりました。」

「聞きながら書くのが大変だ」という学習者の意見に対し、まずパワーポイントの利点を活かし、板書と同じ機能で教師の話のスピードに合わせて要点ごとに提示することを勧めたい。また、漢字に振り仮名をつけたり、ことばや表現を選択したりするなど、内容への理解を助けるための工夫が必要である。授業のプリントを配布することになると、学習者がノートを取る意欲がなくなると考えられるため、パワーポイントで表示できないものや内容のみをプリントで配布することが望ましいだろう。また、パワーポイントの資料を作成する際、学習者に提示したい授業内容の要点は何かを考え、かつ学習者側のことやニーズを配慮したうえで、学習者にとってわかりやすい授業内容に心がけることが必要である。

#### 参考文献

- 石田敏子（2010）「講義研究—表現から理解へ」『講義の談話の表現と理解』，くろしお出版，pp. 1-10
- 岩下智彦（2012）「ノートテイキングからみる講義の理解過程—講義理解のための授業の枠組み形成を目的として—」『2012年度日本語教育学会春期大会予稿集』，pp. 145-150
- 佐久間まゆみ・石黒圭（2010）「講義の談話の分析方法」『講義の談話の表現と理解』，くろしお出版，pp. 12-27
- 高浜正伸・持山泰三（2010）『子どもに教えてあげたいノートの取り方—成績が伸びる子の勉強術』実務教育出版
- 田中典子（2012）「第二言語における専門講義の理解—インタビューと受講ノートを通して—」『第10回日本語教育研究集会予稿集』，pp. 30-33